

『私の住むまちの道 く道からたどる地域性』

東原萌々子・川中琴花・大屋太亮・山田響己・三浦愛佳・中尾表晴・鎌田美萩・大島奏穂

コンセプト

まちの道を歩くことで、
そのまちを好きになる

九大生が、自分の歩き方やお気に入りの道を見つめ直すことで、
伊都というまちへの愛着を育むことを目的とした企画。

背景・目的

多くの九大生が語っていること

”伊都に住むことを楽しいと思えない”

「僻地!」「立地以外は完璧」「あくまで大学に通うために住んでいるだけ。天神や博多に比べて何もない...」

日常でのまち歩きを通して、伊都にしかない風景や街並みに気づき、
このまちへの愛着を生むことはできないか？

伊都での日常生活の中での小さな楽しみを見つけられないか？

実施企画概要

普段は通り過ぎる「道」を自ら歩き、記録するプロセスを通じて、まちへの新たな捉え方を生み出す試み。

見つける・探る

伊都のまちの魅力に気づき、
その道を自分の箱庭と捉えるための
・エスノグラフィ（ワークショップ）企画
・さんぽ企画

残す、伝える

道歩きの楽しみ方や
伊都の景観の魅力を伝えるための
・レポート作成
・ZINEの配布

01

エスノグラフィ企画

実施日：2024年8月1日～4日（合計3回）
実施場所：周船寺、元岡、志摩桜井（参加者の居住地）

「通学路を歩いて個人の記憶を辿り、日常に埋もれた感覚や土地勘を
地図として描き出すフィールドワーク」



KAPPAメンバーと伊都在住の九大生4名が、自身の通学路やお気に入りの道を歩き、その道にまつわる思い出やエピソードを記録する。フィールドワーク後、それぞれが思い描く「自宅～大学間」の脳内地図を描写学生ごとに道に抱く印象の違いや「通る道の選び方」の個性を記録できた。また、地図に描くことで、伊都という地域の“共有されない地理感覚”が可視化された。特に通学ルートの可視化を通じて、移動手段がバス・自転車である九大生にとって、じっくりとまちに目を向ける機会が少ないことも再確認できた。

02

さんぽ企画

季節や時間、糸島の歴史が織りなす、まちの多様な表情や魅力を再発見するさんぽ企画

第1回
お月見さんぽ in 今津海岸周辺

実施日:2024年10月17日(中秋の名月)
参加者:九大生12名



第2回
紅葉さんぽ in 雷山千如寺

実施日:2024年11月22日
参加者:6名



03

石拾いレポート企画

各メンバーが生活圏で“石”を拾い、石を通じて「まちと自分の関係を語る」という実践

レポートのお題をもとに、詩・ポストカード・写真集など様々な形式でまとめ、最終的には ZINE を作成した。



ZINEフェスでの出店

印刷した20部が完売。福岡の小学校に勤務する教員に、「生活科の授業でも応用できるかもしれない」など、今後の活動展開方法を検討する上で有意義なアドバイスをいただくことができた。



今後の展望

地域住民との協働による景観発掘

これまでは九大生のみを対象にしていたが、今後は糸島(伊都)の人々を巻き込みながら、まちの景観を住民自身が再発掘していくような取り組みを実施したい。



活動報告用Instagram アカウントはこちら



@MICHIMACHI.KAPPA